

# とみさぽ

## 3/1火OPEN!



玄関



作業室



市民活動ブース



キッズコーナー

とみさと市民活動サポートセンターは、協働によるまちづくりの主体である市民・区・自治会などの地縁による団体・NPOやボランティア活動を行う市民活動団体・事業者、そして市が交流しながら連携することのできる場所です。

とみさと市民活動サポートセンター開設にあたり、市民の皆さんと一緒に時間をかけて検討を重ねてきました。市民と市職員と一緒にサポートセンターを考える研修も行い、市民目線の意向を反映しながら準備し、ついにオープンを迎えます。

富里に関わるみんなが共に考え、協力して行動する環境を整えて、市民活動を行う人や団体を支援することで、個性豊かで活力のある自立した地域社会の実現を図ります。

**平成24年5月**  
サポートセンターの主に機能について検討する「(仮称)富里市市民活動サポートセンター検討委員会」設置。(8回開催)

**平成25年3月**  
同検討委員会から市に「(仮称)富里市市民活動サポートセンターの機能等に関する提言書」が提出された。

要旨：7つの支援力(※)を備えるサポートセンターが望まれる

**平成26年1月**  
市民や先進地自治体職員、中間支援組織と共に富里市のサポートセンターを考える研修「地域を支える市民活動サポートセンターとは？」を開催。

内容：支援機能や設備について優先的に望まれる事項の洗い出し

**平成26年10月**  
サポートセンターの運営方針について決定。

**平成26～27年度**  
市長の附属機関である「協働のまちづくり推進委員会」においてサポートセンターのコーディネート機能や情報発信機能の整備などについて検討。

### ご利用案内

- 開館時間  
午前9時～午後5時  
※金曜日のみ予約いただければ午後9時まで利用可
- 休館日  
毎週 水曜日・日曜日・祝日  
年末年始・お盆(8/13～8/15)
- 住所 富里市七栄652番地1(富里市役所敷地内)
- 連絡先 TEL&FAX 0476(93)4123



交通案内図  
(成田駅からの略図)

# とみさと市民活動サポートセンター 7つの支援力



- **コーディネート・ネットワーク**  
市民、市民活動団体、事業者、地縁による団体、行政機関など様々な主体同士をつなぐサポートを行います。
- **相談対応**  
専門的な知識を備え、市民活動を支えるため相談者との信頼関係を築き、団体の活動によりよいアドバイスをします。
- **調査・情報収集**  
地域課題や背景・ニーズを把握し、収集した情報を必要としている人に必要な情報を提供します。
- **資源の掘り起こし・提供**  
市民活動団体が必要としている資源(人材・物・情報など)の提供・斡旋などでサポートします。
- **政策提言**  
地域の課題・ニーズや市民から提案された事項を行政へ提言します。
- **人材育成**  
市民活動の担い手の発掘やリーダーの育成など地域の課題解決に向けた人材育成をサポートします。
- **情報の編集・発信**  
収集した情報を受け手が興味・関心を持てるよう編集し、さまざまな手段で情報発信を行います。



しま あけみ  
**島崎 明美** 日吉台在住

職員の中で最年少の今年24歳。市民目線を大事にしながら、日々の暮らしを楽しむことができるよう、市民にとって身近な情報を発信し、富里をもっと知り、住んで良かったと思って貰えるよう、郷土の魅力発信に頑張ります!

うす だ けい こ  
**臼田 恵子** 大和在住

いらして下さった方のお話をよく聞いて、その方が本当に求めているものを見つけていくことができたらいいなと思っています。自分も市民の一人である視点を常に持ち、また、職員として自分の強みは何か、どのようなお手伝いができるかを見つけていきたいです。



ひがや ゆみ こ  
**飛ヶ谷 祐示子** 立沢在住

いらっしゃる方のご縁を大切にコミュニケーションを図り、理解合いながら進めていきたい。また、笑顔を決やさず、特別な用事がなくても皆さんが気軽に足を運んで頂ける雰囲気作りを心掛けていきます! どうぞお気軽にお立ち寄り下さい。



かわ た あつ こ  
**河田 厚子** 日吉台在住

センター職員は全員女性。女性ならではのしなやかさとやわらかさを大切に、女性が地域で活動しやすい環境を作っていきたい。センターを訪れる方が色々なお話をして下さる中で、より夢を大きく抱いて頂けるよう、皆さんの想いを引き出しながら、一緒に考えます。

ひら の のぞみ  
**平野 希** 高野在住

現在、職員自らが市民団体の取材を行っており、活動のジャンルを問わず、皆さん郷土愛が深く、だからこそサポートセンターが求められる意義も実感しており、自覚と責任を持って取り組まなくてはと身の引き締まる思いです。

